

韓～中～日の交通網、21世紀初めに開通

来たる21世紀の初めには北韓を貫き、韓国、中国、日本の3カ国を結ぶ国際高速道路と鉄道が開通すると予測される。

三星物産は30日、社内の地域研究チームのひとつである中国文化研究会会員16名が、現地踏査など1年間の研究結果を基礎に作成した「中国環境変化眺望と展望表」において、このように予測した。

展望表は中国の変化を去る86年から21世紀初めまでの期間を対象に、△政治と外交、△経済、△産業技術、△社会と文化、△韓中関係の5分野に渡る過去の主な出来事と未来に予想されることとを図表化したものだ。

中国展望表は、来たる21世紀の初めには東京～ソウル～平壤～北京を結ぶ国際高速道路が建設され、北京～瀋陽～丹東～平壤～ソウル～大田～釜山～対馬～九州を結ぶ鉄道も開通すると予想している。

経済分野では中国、台湾、香港など「三中国」のGNP合計が2002年にアメリカを追い越して世界第1位となり、2020年には中国が世界最大の経済大国と最大の食料輸入国に浮上すると中国展望表は予測している。

中国展望表は、世界最大の発電量を誇る三峡ダムが2010年に完成、揚子江と北京を結ぶ運河と上海新空港も完工し、大連と山東半島を結ぶ連陸橋が建設されると予測する。

21世紀初めに中国の電子産業と造船産業、繊維産業の生産量が全て世界一位にのし上がり、中国は※※衛星と有人宇宙船を打ち上げ、山東省と江蘇省には100万KW級の韓国型原子力発電所が完成すると中国展望表は予測している。

中国展望表は韓中関係について、△96年の韓中間の直接交易が200億ドル突破、△97年中国内における4番目の領事館を延吉に開設、△98年三星乗用車が中国に初進出、△2000年に両国の直接交易が500億ドルを越えると展望している。

韓～中～日交通網 21世紀初め

三星物産 社内研究チーム 企画

この展望表は、1986年から21世紀初めまでの期間を対象に、政治、経済、産業技術、社会と文化、韓中関係の5分野に渡る過去の主な出来事と未来に予想されることとを図表化したものだ。

中国展望表は、来たる21世紀の初めには東京～ソウル～平壤～北京を結ぶ国際高速道路が建設され、北京～瀋陽～丹東～平壤～ソウル～大田～釜山～対馬～九州を結ぶ鉄道も開通すると予想している。

経済分野では中国、台湾、香港など「三中国」のGNP合計が2002年にアメリカを追い越して世界第1位となり、2020年には中国が世界最大の経済大国と最大の食料輸入国に浮上すると中国展望表は予測している。

中国展望表は、世界最大の発電量を誇る三峡ダムが2010年に完成、揚子江と北京を結ぶ運河と上海新空港も完工し、大連と山東半島を結ぶ連陸橋が建設されると予測する。

21世紀初めに中国の電子産業と造船産業、繊維産業の生産量が全て世界一位にのし上がり、中国は※※衛星と有人宇宙船を打ち上げ、山東省と江蘇省には100万KW級の韓国型原子力発電所が完成すると中国展望表は予測している。

中国展望表は韓中関係について、△96年の韓中間の直接交易が200億ドル突破、△97年中国内における4番目の領事館を延吉に開設、△98年三星乗用車が中国に初進出、△2000年に両国の直接交易が500億ドルを越えると展望している。